

平成 25 年度
(2013年度)

町 長 施 政 方 針

葉 山 町

はじめに、平成25年葉山町議会第1回定例会に当たりまして、施政方針を述べる機会をいただきましたこと、議長並びに議員各位へ深く感謝の意を表します。議員の皆様、町民の皆様とともにまちづくりを進めるべく、今年度の町政の施政方針を申し述べ、広くご理解とご協力を賜りたく思います。

さて、昨年末の総選挙により政権交代した国政では、日本経済再生に向けた緊急経済対策を発表し、金融緩和、財政出動、成長戦略の「3本の矢」で取り組む方針を明確にしました。その後、国の平成25年度予算では、それら大型補正予算と一体的なものとして、いわゆる「15ヶ月予算」として編成することにより、切れ目のない経済対策を実行し、景気の底割れの回避とデフレからの早期脱却及び成長力の強化を図る予算編成の基本方針を閣議決定しています。

しかし、これにより円安・株高と市場の反応はうかがえますが、依然、財政悪化や長期金利上昇の懸念は拭えません。町民の生活と直結する町政を預かるものとして、これらの経済政策が实体经济を動かし、現実の投資や消費行動がともない、町民の暮らしに経済効果が反映されるまで、手綱を緩めることなく堅実な行政運営を進めていかなければならないと考えております。

昨年はそういった堅実な行政の取り組むべき第一歩として、防災力の強化に力を入れ、災害への備えを強化する取り組みを進めました。防災力の強化は中断なく、平成25年度も行ってまいります。

さて、平成25年度予算編成の際の考え方としては、検討する事業が「将来への種まき」となるか、もしくは「危機回避への備え」となるか、を投げかけ、その2点の要素を主軸に、メリハリのある予算を職員と一丸となって考え、まとめ上げました。

「危機回避への備え」において、防災関係予算は、地域防災計画の見直しや2か年にわたる災害時医療体制の資器材整備を進めます。また、2か年目となる防災行政無線の見直し工事は急ぎ完了させるべく進め、その後も難聴地域の対策には引き続き取り組んでまいります。また、常備消防の定員数についても増員計画を定め、日常の安全安心の構築に体制強化を図ってまいります。なお、昨年は姉妹都市・草津町との支援協定や、災害時の自衛隊や海上保安庁など外部機関との連携強化を進めましたが、本年3月11日には一色・大浜海岸地域にて、神奈川県警察と皇宮警察、陸上自衛隊、海上保安庁と当町職員及び消防署、消防団による大規模津波対策合同訓練が行われることになりました。関係機関には、当町にとって非常に心

強い取り組みを行っていただけることに深く感謝をいたしております。また、今後の課題として、横須賀在日米軍とのホットラインの開設も協議を進めており、NBCテロ対策などをはじめ、有事の際のさらなるパートナーシップ構築にも努めてまいります。

次に、町財政の危機回避としては、町有施設の老朽化に伴う維持補修に要する経費の増大を予測し、計画を策定し次第、速やかに公共公益施設整備基金に積み替えることを視野に入れております。町税の徴収率向上により財政調整基金にやや積み増しができた現況は大変ありがたいことではありますが、先に申し述べましたとおり、手綱を緩めることなく来るべく支出のための一時預かりとして確保してまいります。また、引き続きプライマリーバランスを維持しつつ、町政の基礎固めを確実なものにしたうえで、PPSの導入のような新たな手法によるコスト削減はもちろんのこと、各種産業の活性化による税収増など、新たな財源の確保策に取り組んでまいります。

次に、「将来への種まき」として平成25年度は、行政の意思、意識を内外に明確にするために、「子育て」をテーマに力を入れて取り組みます。働くお母さんの支援となる待機児童対策や町内の子育て

環境の充実、親と子の関係について考えるきっかけづくりや、親子が葉山の自然に親しめる機会の創出、また、子どもたち自身が健全に遊び、学ぶことのできる空間を整備して行こうと考えております。

また、こうして子どもたちを中心に地域が、行政が子どもを見守り、地域子育てを促進するための協議を行う機会も非常に重要です。関係機関との連携にも力を注いでまいります。

次に地域外交について申し述べます。防災関係では、官民間問わず広く協力関係の構築に努めますが、通常の行政運営においても欠かせないパートナーシップが地域外交です。お隣の逗子市とは、これまで以上に協議、連動を強めてまいりたいと考えております。また、横須賀市・三浦市からは、ごみ処理広域化からの離脱問題において、残念ながら高裁判決を不服として上告され、引き続き係争中ではありますが、両市を訪問した際や、先方の議会答弁において、それとは関わりのない分野では、当町とも地域連携を図るという見解を聞いてはおります。また、本年6月に鎌倉の世界遺産登録が決定すれば、当町へも経済効果や、人や交通の流れに影響が及ぶことは必至です。三浦半島圏と鎌倉を含めた地域の連携をより密に行い、当町内外においても、さらなる魅力の創造と人の活性化に尽くしてまい

りたいと考えております。

次に、内政面については、し尿投入施設の完工やごみ処理基本計画の改訂、中間処理の安定化や戸別収集の全町開始の検討など、一般廃棄物処理の関係には引き続き多くの課題が山積しています。また、リサイクルやリユースによる資源の再利用も取り組むべき課題であり、廃棄物の資源化減量化には、全町的な機運の高まりとともに、町民や事業者の皆様を巻き込んだ葉山ならではのゼロ・ウェイストを推進してまいりたいと考えております。また、クリーンセンターの職員を中心としたクリーンセンターごみ減量推進会議の主導によって、本年2月より戸別収集の拡大が開始されていますが、現場と事務方の協力体制をさらに強化して、町民の皆様により分かりやすい収集、処理体制を目指してまいります。

次に、すべての事務事業を執行する行政の行政改革について申し上げます。現在、葉山町役場の第2創業期ともいえる行政改革を進めています。昨年の補正予算に議案として上程しました人件費削減は4年間で総額2億4,000万円以上のコスト削減であり、職員一同がともに痛みを分かち合った一つの成果です。その後は職員による接遇向上委員会と既存の安全衛生委員会がリンクしながら、町役場

の仕事環境とお客様の視点について議論を重ね、具体的な改善を提案、実行してまいりました。書類管理やレイアウト、来庁者をもてなす接遇マニュアルの策定など、働く人の笑顔もお客様へのサービスと考え、役場のサービス向上に職員の意識改革を進めてまいります。

また、平成25年度は、行政内部のテーマに、「横連携」を設定しています。先ほどの子育てにおいても、多くの関連部課が連携することで成功するプログラムを設定しているように、従来から課題とされてきた縦割り行政の弊害を打破すべく葉山町役場ならではの横連携による役場力の強化に取り組んでまいります。機構改革検討委員会でも、「横連携できる組織に向けて」を一つのテーマとしておりますが、さまざまな階層、手段、場面において職員の力を結集させ、役場力を高めるべく取り組んでまいります。

こうして、多くの職員がつながり合う意識を持つことで、町民の皆様と役場もつながり合い、前例にとらわれない柔軟な発想を生み、町民の皆様へ寄り添う行政が実現できると考えております。

激動する経済、社会情勢にあっても、私たちは住民生活と直結する町政を預かるものとして、住民とともに将来を考え、住民に寄りそった課題解決を図る姿勢を変えることはありません。様々なご依

頼やご要望には、きめ細かくできる・できないのお答えや理由などをお伝えして、葉山町行政の意思をしっかりとお示しし、難しい時代だからこそ、ともにつくるまちづくりへ、一人でも多くの住民の方々にご理解、お力添えをいただけるよう尽くしてまいります。

さて、それでは平成25年度のそのまちづくりにかかわるその他の主な事業につきまして、第三次葉山町総合計画後期基本計画の体系に沿い、ご説明申し上げます。

一点目「青い海と緑の丘のある美しいまち」づくりにつきまして、自然を尊重し、生活環境の保全、レクリエーション需要への対応及び防災の観点も踏まえた魅力ある公園の創出をめざし、ふるさと葉山みどり基金を財源としての湘南国際村グリーンパークの維持管理及びしおさい公園、南郷上ノ山公園等7箇所の都市公園や62箇所の一般公園等の適正な維持管理・整備に努めてまいります。なお、花の木公園につきましては、つつじの手入れを5か年計画で行い、観光地として、葉山の花としての魅力向上に取り組みます。

道路及び河川・橋梁の整備につきましては、町道における交通の安全確保と道路環境の改善を図るため、舗装や改修、側溝等の整備を行うとともに、橋梁の長寿命化のための設計委託を行います。

次に、公共下水道の整備につきましては、一色地区を中心に約7ヘクタールの整備予算を計上し、その範囲内での敷設工事を行ってまいります。その一方で今後の下水道事業のあり方については、浄化槽汚泥にかかるし尿処理との公平性などについて、他自治体の事例などに学び、下水道審議会委員との懇談などご意見を頂戴しながら検討を進めてまいります。また、施設に関しては、防災の観点から中継ポンプ場の耐震診断を実施いたします。

地球温暖化対策・省エネルギーの推進では、自然エネルギーの有効活用、促進に向け、引き続き住宅用太陽光発電設備設置に対する補助を行ってまいります。

二点目「文化をはぐくむうるおい、ふれあいのまち」づくりでございますが、葉山らしさを深め、誰もが住み続けたくなる町を将来へ受け継ぐため、平成25年度より社会教育委員会や葉山郷土史研究会などの方々のご協力により、町政施行90周年に向けて、葉山町史の編纂にかかっています。

学校教育につきましては、小学校クラブ活動、中学校部活動をよりいっそう充実できる条件整備に取り組み、児童用図書の実も図ってまいります。施設整備では、良好な教育環境の維持のための施

設整備として、小中学校全教室へのエアコン設置に向け、実施設計を行うとともに、小学校トイレの改修及び遊具の新規設置を行ってまいります。安全対策といたしましては、一色小学校新館の耐震工事を実施し、本工事の完了により、学校施設の耐震化率は95.8%を目指します。

次に、人間形成の基礎を培うための幼児教育及び青少年健全育成の推進として、私立幼稚園児の保護者の負担軽減策である幼稚園就園事業補助金を国基準に準拠し、町単独上乘せは継続して行い、更なる負担軽減に努めてまいります。さらには町内私立幼稚園の運営に関する補助の一部引き上げを行い、幼稚園教育全般の振興を図ってまいります。また、情操教育の一環としての自然体験プログラム「海山に育ち親しむ子どもたち」として、小学校1年生から3年生を対象に、環境保全、産業振興など施策の横連携のもと、稚魚の放流、タッチプール、潮干狩りを、小学校4年生から6年生を対象にしたけのこ堀り等を実施いたします。

その海山に関連した農業漁業の振興では、地場農産物の生産向上を図るとともに、特産物の開発、地産地消活動等を推進いたします。商業の振興では、住宅リフォーム助成を継続し実施すると共に、南

郷地区の活性化・交流拠点づくりを葉山町商工会との協働で実施する中で、商工会が行う商業施設の建設計画や、店舗事業者誘致及び市場調査等、活性化推進に向けた事業に対し補助を行います。

三点目「安全で安心して暮らせるまち」づくり、うるおいのある生活と、安心して子育てができる町を作るため、地域福祉の充実では拠点となる町民いこいの家の耐震補強工事実施設計を行います。

児童、子育て家庭の福祉の充実では、小児医療助成事業として、通院医療費の助成対象者を現行の小学校「４年生まで」を「６年生まで」に引き上げ拡充し、負担の軽減に努めてまいります。また、児童相談事業では、親子の絆づくりのため、子育て支援・親育てプログラムを実施いたします。

高齢者福祉の充実では、介護保険の適用を受けない要援護高齢者を対象に、生活支援サービス事業としてデイサービス及び在宅高齢者福祉サービスである緊急通報システムや住宅改修費助成事業を実施いたします。また、新たに青少年会館と芝崎児童館にAEDを設置し、地域の安全と安心の充実を図ります。

地域保健活動及び地域医療の充実では、健康づくりを推進するため、各種がん検診や予防接種の実施、医師会等への支援を行うほか、

引き続き妊婦健康診査を実施いたします。なお、乳児予防接種事業では、ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がんワクチン接種を実施してまいります。平成25年度から本ワクチン接種が定期接種化され、町単独事業となっております。また、新規事業として、75歳以上の高齢者を対象として、肺炎の予防及び重症化を防ぐ目的で、肺炎球菌ワクチンの接種費用の助成を行い接種の促進を図ります。

次に、災害に強く安全な町をつくるとして、消防・救急体制では、常備消防体制の充実に向け、神奈川県下消防本部との共同で進めております消防救急デジタル無線共同整備において、共通波整備及び逗子市と共同で活動波の実施設計を行います。また、救急資機材の維持管理を適正に行うと共に、救急救命士教育を充実させるため、消防救急活動を担う消防職員の再教育を行います。

さらには、消防団員、女性防火防災クラブ員等の協力を得て、災害の予防、警戒、訓練及び啓発活動を実施するなど、災害発生時の対応に万全をつくり、車両の整備といたしまして第2分団積載車の更新を行います。

東日本大震災における多くの尊い犠牲の上の貴重な教訓を踏まえ、災害に強いまちづくりをめざす防災体制の確立では、危機管理体制

の充実を図ると共に、防災対策の主眼を主に減災対策に置き、有事の際、確実に対応できるよう行政と町民が一体となった防災訓練を繰り返し実施し、自助、共助、公助の連携体制の確立を図ります。

四点目「住民が参加する自治のまち」づくりでは、住民主体のまちをつくるための情報発信に、広報・広聴活動の充実として、見て感じる分かりやすい広報誌の発行や、湘南ビーチFMによる各種事業、町内の催しの紹介や、ホームページを活用した様々な情報の提供を行ってまいります。なお、ホームページにつきましてはより見やすく、分かりやすく、へと改修を検討してまいります。

町民参加・参画の推進では、平成27年度を初年度とする第四次葉山町総合計画、基本構想、基本計画の策定に際し、色々な分野において様々なご意見をいただけるよう、町民参加の仕組みを用いるための（仮称）町民ワークショップを立ち上げ、行政と町民が一体となって、構想・計画の策定に向け進めてまいります。

以上、行政の性質及び4つの施策の大綱に沿って、主な事業を抽出して、迎える平成25年度の私の施政方針を述べさせていただきました。冒頭に述べましたとおり、国レベルでは政権交代を契機に経済対策を主眼とした「停滞」から「活性」への転換を図ろうと動

き出したところであります。葉山町におきましても、基礎固めから必要な投資を見出し、将来への「活性」の着実な歩みも進めていく所存でございます。どうか議員各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、平成25年度予算案並びに関係議案に対しご賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。